

2020年4月7日
ギリアド・サイエンシズ株式会社

当資料は、米国ギリアド・サイエンシズ社が、2020年4月7日（現地時間）に発表した英文声明を日本語に翻訳、一部編集したものです。正式な言語は英語であり、その内容ならびに解釈については英語が優先いたします。

ギリアド・サイエンシズ フォーティイー・セブン社の買収を完了

ギリアド・サイエンシズ（本社：米カリフォルニア州フォスターシティ、ナスダック：GILD、以下「ギリアド」）は、4月7日、ギリアドの完全子会社である Toro Merger Sub, Inc.（以下「買収者」）が既に発表しておりました米フォーティイー・セブン社（ナスダック：FTSV、以下「フォーティイー・セブン」）の買収を完了したことを発表しました。買収金額は、1株あたり現金95.50米ドル、無利息、総額約49億ドルです。

ギリアドとフォーティイー・セブンは2020年3月2日、フォーティイー・セブン、ギリアドと買収者が買収契約を正式に締結し、株式公開買い付けを実施することを発表しました。合併契約に従い、ギリアドと買収者が2020年3月10日に株式公開買い付けを開始し、フォーティイー・セブンの全発行済株式を1株あたり95.50米ドル（無利息、支払総額）で取得しました。2020年4月7日、ギリアドはフォーティイー・セブンの全ての発行済普通株式の公開買い付けを完了し、本公開買い付けにおいて有効に申込みがあり当該申込みが撤回されなかった全ての株式への支払いを了承しました。ギリアドは当該株式、すなわちフォーティイー・セブンの発行済株式の約93.48%に相当する株式（引渡保証通知に基づき応募された2,133,813株〈発行済株式に占める割合:約4.42%〉）に対する支払いを直ちに行います。合併契約の条項に従い、買収者は2020年4月7日付でフォーティイー・セブンを吸収合併しました。フォーティイー・セブンの発行済普通株式のうち、(i) ギリアド、買収者もしくはこれら企業の直接・間接的子会社の持ち株、(ii) フォーティイー・セブンの持ち株（フォーティイー・セブンの自己株式）、および (iii) 米国デラウェア州法に基づく買収実行の承認を必要とする株主の持ち株を除く全ての発行済株式が消却され、1株あたり95.50米ドルの現金を受け取る権利に変換されました。

合併完了の結果、フォーティイー・セブンはギリアドの完全子会社となり、フォーティイー・セブンの普通株式はナスダック・グローバル・セレクト・マーケットから上場廃止となります。上場廃止は、2020年4月7日の取引時間終了後となる見込みです。

ギリアドの会長兼最高経営責任者ダニエル・オデイ（Daniel O'Day）は次のように述べています。「私たちは今後協働し、magrolimabの開発を加速し、ギリアドのがん免疫療法分野の研究を進めてまいります。フォーティイー・セブンのチームがその独自の専門性を発揮し、当社の臨床パイプラインに大きな付加価値をもたらす

とともに、最も治療が難しいがん種の患者さんのお役に建てるようになると期待しています。」

ギリアドの財務顧問はCiti および J.P. Morgan、フォーティー・セブンの財務顧問は Centerview Partners LLCが担当しました。ギリアドの法律顧問はSkadden, Arps, Slate Meagher & Flom LLP、フォーティー・セブンの法律顧問はCooley LLPが担当しました。

フォーティー・セブンについて

フォーティー・セブンは、スタンフォード大学からライセンスを受けた技術を基に、がん細胞の免疫回避機構を標的とした腫瘍免疫薬を開発している企業です。フォーティー・セブンの最も先行したプロジェクトであるmagrolimabは、がん細胞がマクロファージによる貪食を回避するための「don't eat me」シグナルを伝えるCD47に対するモノクローナル抗体です。現在、この抗体で骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫、そして固形がん患者を対象に複数の臨床試験が実施されています。フォーティー・セブンに関する詳細は、www.fortyseveninc.comをご覧ください。

ギリアド・サイエンシズについて

ギリアド・サイエンシズは、医療ニーズがまだ十分に満たされない分野において、革新的な治療を創出、開発、製品化するバイオファーマ企業です。会社の使命は、生命を脅かす病を抱える世界中の患者さんのために医療を向上させることです。カリフォルニア州フォスターシティに本社を置き、世界35か国以上で事業を行っています。ギリアド・サイエンシズに関する詳細は、gilead.comをご覧ください。

将来予想に関する記述

本プレスリリースは、1995年米国民証券訴訟改革法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）で定義される「将来予想に関する記述」を含んでおり、ギリアド、フォーティー・セブン、およびギリアドによるフォーティー・セブンの買収に関し、いくつかのリスクや不確定要素などの要因に左右される場合があります。過去の事実以外全ての記述は、将来予想に関する記述とみなすことができます。これらの記述には、両社やその経営陣上層部の意向、見解、または現時点での予想に関する全ての記述が含まれます。将来予想に関する記述には、無制限に、以下のことが含まれますが、これらに限定されません：企業結合および関連事項、将来の業績と機会、買収手続き終了後の事業、および以下の事柄を含む事業の見通し・機会に関する記述：ギリアドがmagrolimab、FSI-174とFSI-189を含むフォーティー・セブンの製品パイプラインを進展させられない可能性、magrolimabとFSI174、FSI-189の承認申請が適切な時期に認められない可能性、臨床データの予定取得時期、これらの臨床試験から好ましくない結果が得られる可能性、企業統合時における困難又は予想外の経費の発生、および前述のいずれかに基づく仮定に関わる記述がすべて含まれます。投資家はそのような将来予想に関する記述が将来の業績を保証するものではないこと、またリスクや不確定要素が含まれていることに留意し、このような将来予想に関する記述に全面的に依拠しないよう注意してください。数多くのリスクや不確定要素により、実際の結果が現在予想されている結果と著しく異なることもあります。将来予想に関する記述で予期された見込みと実際の結果が異なる原因となるリスクや不確定要素には次のものが含まれます。従業員、顧客、その他取引先、または政府機関との関係にこの取引が与える影響、FDA承認の時期と結果の予測困難性、競合製品およびその価格の影響、その他、以下を含む事業にまつわる影響：ギリアドでは制御不可能な以下を含む業界・経済・政治的条件の影響、取引費用、実債務および偶発債務、COVID-19などの世界的流行、

流行または集団発生による将来の事業、業績または経営状況に及ぼす悪影響、および米国証券取引委員会（SEC）への企業の定期報告に詳細が記載されているその他の不確定要素で以下に報告されるものを含みます：Form 8-Kの最新報告、Form 10-Qの四半期報告とForm 10-Kの年次報告。すべての「将来予想に関する記述」は、現在ギリアドが把握している情報に基づくものであり、ギリアドはそうした「将来予想に関する記述」を更新する義務を負わないものとします。

###

ギリアドに関する詳細については、同社ウェブサイト www.gilead.com またはツイッター (@Gilead Sciences) をご参照いただくか、ギリアド社広報部(1-800-GILEAD-5、1-650-574-3000)までお問い合わせください。